

乳がん最新治療

センチネルリンパ節生検

近年の乳がん治療の進歩はめざましく、手術・化学療法・ホルモン療法などの分野で、新しい治療が開発されています

今回は、乳がんの手術における最新治療のひとつである「センチネルリンパ節生検」について紹介いたします。

外科医長(乳腺専門) 田中 旬子



えきかりんばせつかくせい 腋窩リンパ節郭清

乳がんにおいて、がん細胞が乳管や小葉内にとどまらず、外にひろがっている「浸潤がん」の場合、がん細胞はリンパ液の流れによってわきの下のリンパ節にたどり着き、そこから全身に転移してしまうと長年考えられてきました。これを防ぐために、乳がんの手術は100年前にはじまってから近年にいたるまで、わきのリンパ節を切除する「リンパ節郭清」が一律に行われてきました。

リンパ節郭清を行うと、「リンパ浮腫」と呼ばれる腕のむくみや、知覚異常などの後遺症が残ることがあります(下図)。

リンパ浮腫	10~18%
手術後のわきへのリンパ液貯留	
・ 必発、軽度の運動障害	16~42%
・ 腕の疼痛	14~25%
・ 知覚異常(しびれや知覚麻痺)	70~80%

しかし、今ではリンパ節への転移状況は情報源として必要ですが、リンパ節郭清自体は生存率の向上に寄与しないことが明らかにされました。つまり、「わきのリンパ節をとってみたら転移はなかった」という方は、本当はリンパ節

郭清は不要であったことになります。

そこで、患者さんの負担をできるかぎり軽くするために登場したのが、世界中で急速に普及しつつある「センチネルリンパ節(見張りリンパ節)生検」という方法です。

転移する乳がん細胞が真っ先に到達するリンパ節

わきのリンパ節に転移がないことを、どうすれば事前診断できるかが問題です。残念ながら、現在の技術では、手術前の画像診断では限界があることがわかっています。そのため、最初のがん細胞がたどりつくリンパ節を「センチネルリンパ節(見張りリンパ節)」と呼び、手術中に病理検査をして、ここにがんがなければ、そこから先には転移はないと判断して、通常のリンパ節の切除(腋窩リンパ節郭清)をしない方法が「センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略」の理論です。



センチネルリンパ節を見つける方法

具体的な方法は、手術の前に「色素」を乳房に注射して、これを目印にみつけます。通常、色素は手術室で麻酔のかかったあとに注射します。ラジオアイソトープという放射性物質もちいる方法もありますが、当院では色素法のみで行っています。

もしも、あなたがこの方法を希望された場合、実際の手術室で以下のような状況が想定されます。

術中の病理検査で、センチネルリンパ節に<がん>がなかった場合	予定通り、通常の腋窩郭清は省略
術中の病理検査で、センチネルリンパ節に<がん>があった場合	通常の腋窩リンパ節郭清術をおこなう
術中センチネルリンパ節が見つからなかった場合	

センチネルリンパ節生検がかかえる問題点

センチネルリンパ節生検は、世界中で急速に普及しつつありますが、問題点がないわけではありません。

まず、評価した腋窩リンパ節転移の診断がどのくらい正確かという問題点があります。センチネルリンパ節に<がん>がなければ、ほかの腋窩のリンパ節にも<がん>がない確率は95%といわれています。100%ではありませんので、センチネルリンパ節に<がん>がないと判断し、わきのリンパ節をとらなかつた方の中で、ごく少数の方にわきのリンパ節に<がん>が遺残することになります。

2つめは、センチネルリンパ節自体が見つからないケースがあることで、その場合は、通常の腋窩リンパ節郭清が行われます。

3つめは、摘出したセンチネルリンパ節の検査方法です。転移しているかどうかは、手術中の迅速に行われる顕微鏡検査で判定されます。しかし、なかには手術中に転移陰性（がんの転移がない）であっても、手術後2～3週間後にわかる最終的な病理検査で「転移がみつかった」と変更になることも、まれにあります。

4つめは、センチネルリンパ節生検を受けた人と、受けずにリンパ節郭清をした人との生存率の違いなど結論がまだでていないことです。現在、大規模な臨床試験が欧米を中心に行われており、その結果を待っている状態です。



色素法でマーキングされたセンチネルリンパ節

幕内雅敏ほか：
「乳腺外科の要点と盲点」文光堂より
—併用法—沢井清司・中嶋啓雄

おわりに

センチネルリンパ節生検は、まだ標準的な方法ではなく、選択される患者さんご自身に今までご説明したリスクを負っていただくこととなります。しかし、通常の腋窩リンパ節郭清に伴う合併症（むくみ・痛み・しびれなど）を回避する有効な方法であることも事実です。

当院では、術前診断で腋窩リンパ節に転移がないと予想される方で、かつ比較的腫瘍が小さい方に、患者さんごとの相談のうえでセンチネルリンパ節生検を施行しています。

気になることがございましたら、お気軽におたずねください。